

## 〈解答〉

- ① 1 (1) 承久の乱 (2) 奉公  
2 (1) 建武の新政 (2) 足利尊氏  
3 ア  
4 (1) 出島 (漢字2字指定) (2) イ (3) 朝鮮通信使

配点 ① 2(2), 3は各2点, 他は各1点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1(1) 3代将軍源実朝が暗殺されて源氏の将軍が途絶えると、院政を行っていた後鳥羽上皇が、1221年に幕府を倒すため兵を挙げた。しかし、味方となった武士は少なく、上皇は幕府軍に敗れた。これを承久の乱という。以後、北条氏は代々、執権として御家人たちをまとめ、幕府を運営していくようになった。
- (2) 源頼朝の開いた鎌倉幕府は、家来となることを誓った武士を御家人にして、先祖から引き継いできたその領地の支配を認め、手柄に応じて新たな領地や守護、地頭の職を与えた。これを御恩という。御家人たちは合戦に備え、京都や鎌倉の警備をするなどの義務を負った。これを奉公という。この御恩と奉公による主人と家来の主従関係を基に、住民や土地などを支配するしくみができた。
- 2 以前から政治の実権を取り戻そうと考えていた後醍醐天皇は、悪党や幕府に不満を持つ御家人を味方につけると、幕府を倒す戦いをおこした。1333年、楠木正成らの新興の武士や、足利尊氏、新田義貞ら東国の御家人などの働きによって、鎌倉幕府は滅びた。1334年、後醍醐天皇を中心とする政治が始められた。これを建武の新政という。しかし、これまでの武士のしきたりを無視し、天皇に権力を集めて新しい政策を次々に打ち出したため、武士や農民だけでなく、天皇に近い立場にある公家からも批判を浴びた。足利尊氏が、武家政権の復活を目指して兵を挙げると、新政は2年半で崩れ去った。1338年、足利尊氏は新しい天皇を即位させ、自分は征夷大将軍となって京都に幕府を開いた。
- 3 織田信長は、楽市・楽座の政策によって商人を城下に招き、座や各地の関所を廃止し、自由な商工業の発展を図った。一方で堺などの自治都市や、比叡山延暦寺、一向一揆など自分に従わない仏教勢力は武力で従わせた。
- 4(1) 出島は、江戸時代、長崎港内につくられた扇形の人工のうめたて地である。1634年に島をつくり、1636年にポルトガル商人を住まわせた。1641年に平戸のオランダ商館をここに移し、鎖国の間は、ここだけで貿易が許された。
- (2) 禁教が進む中、キリシタンが多かった島原(長崎県)と天草(熊本県)で、重い年貢の取り立てとキリシタンへの厳しい弾圧に抵抗して、1637年に人々が一揆をおこした。これを島原・天草一揆という。アは1488年におこった加賀の一向一揆、ウは1837年におこった大塩平八郎の乱、エは1592年の文禄の役、1597年の慶長の役である。

- (3) 朝鮮通信使は、江戸時代に将軍の代わりや祝い事のために、朝鮮の国王から派遣された使節団である。